



学校運営協議会たより

第2回学校運営協議会の報告

今年度、第2回目の学校運営協議会が令和7年1月31日に開催されました。今年度の第1回は6月20日（木）で、今年度の学校の経営方針や年度当初にとらえている課題とその取り組みの方針等について協議していただきました。2回目の今回は、「今年度の評価と総括」「学校評価のまとめ」「次年度の教育課程」について、学校からの報告と説明をさせていただき、委員の皆様からご意見をいただきました。

令和6年度の評価と総括／学校教育目標のとらえ直しと今年度の取り組み

【自立】『子供も教員も学び続ける学校』

※将来の変化の激しい、予測できない時代を生き抜くため、「自立した学習者」として学び続け、持続可能な社会の担い手となるための大郷小の教育

- ◎「その学習活動で何を学ばせるのか」「どのような姿を求めるのか」を明確にし、教職員の取り組みの方向性を揃えることに努めた。
- ◎校内授業研究会に全教員が積極的に参加し、「もっと良い授業にするためにはどうするのか」「授業でつけない力に迫るためにはどうすれば良いのか」を真剣に議論する研究会が実施できた。

【共生】『自他のいのちを大切にする学校』

※全ての人がお互いの人権や尊厳を大切にし、支え合い、誰もが生き生きとした人生を送ることができる「共生社会」をつくるため、その一員としての学びや心の成長を支える大郷小の教育

- ◎「何のために」「誰が」「どんな方法で」「途中での評価と改善の方策の検討」を丁寧に話し合わせ、考えさせた。子供たちが「自分ごと」として受け止め、やりがいをもって取り組むことができた。
- ◎様々な学習場面で「いのち」について考えさせ、「いのち輝く姿」「一人一人が大切な存在」を意識させ、全力で取り組む大切さや、いじめ防止や事故防止に向けての意識化を図った。

【誇り】『地域を愛し、誇りにする学校』

※地域で学び、地域を題材とした学習を通して、大郷の良さを理解し、地域を誇りに感じ、愛する心を育てる大郷小の教育

- ▲「さくらんぼ贈呈式」「ラ・フランス贈呈式」「地域調べ」「田植え」「社会科見学」など、地域で学び、地域の皆様を先生として教えていただくなど、地域の題材で学習する機会はあるものの、もっと子供たちの主体的な取り組みを喚起し、地域の良さや魅力を発見する学習体験を企画したい。
⇒令和7年度は『地域探訪オリエンテーリング（仮称）』を企画して実施する。
- ▲小学生として、地域の一員として何ができるのかなど、地域の一員としての意識や考えを持つこと、地域の発展に何かできることはないかなどの「発展的な課題」にも挑戦させたい。
⇒教科学習および、生活科や総合的な学習の発表機会として「学習発表会」を実施しているが、もっと発展的で提案性のある課題にも挑戦させる機会を設け、その発表会という位置づけにする。

【信頼】『応援され、支援される学校』

※誰一人取り残されず、個々の個性を尊重する学びを実現することや、学校への理解が進み、安心・安全な学校として認識されることによって生まれる頑強な絆を土台とした大郷小の教育

▲学校の取り組みや活動のねらいについて、周知を図ったり広報活動をしたりする部分での不十分さがこれまであり、誤解やすれ違いが生じたこともあった。保護者の皆様・地域の皆様との共通理解と共通実践による「子供のための教育・共育」と信頼の回復が必要である。

⇒①先生方が常に研鑽を積み、個別最適な学習や教育 DX を実現する。

②「大郷小が楽しい」「大郷小で学ぶと力がつく」を実現し、継続することに努める。

③保護者の皆様、地域の皆様との共通理解と共通実践によって、共に子供の学びを支える。

④学校の姿勢を堅持し、理解を得ることによって、それぞれのお立場で学校を支えていただくことができる「チーム学校」を目指す。

今年度の取り組みの重点の評価

(1) 子供の育ちに向けた実践研究と授業改善

◎校内研究はとても充実／△モジュールの活用／▲学力充実／▲学習習慣の確立

(2) 子供主体の学びの日常化

※1

◎子供たちの自主的活動／△主体的取り組み／△言葉遣い／△あいさつ

(3) 安心・安全な環境整備及び、子供の判断力の醸成と育成

◎いのちの学習推進／△年度初めのケガが多い／△緊張感ある避難訓練／△校地内外の老朽化対策

(4) 家庭・地域との連携及び、教育資源の活用

◎学校運営委員会の充実／△学校の情報発信／▲学校と保護者・地域との信頼関係の構築

(5) 「ウェルビーイング※2な学校づくり」

△まだまだ周知不足、これからも継続して諸活動に根付くまで取り組む

※1 モジュール授業とは、授業時間45分を15分で区切り、15分ずつの朝3回で1授業、5時間目を60分「1+1/3」とカウントする授業形態です。

※2 ウェルビーイングとは「良好な状態」「心身ともに健康で、持続的に幸福な状態」の意味。学校では、ウェルビーイングの実現をめざし、学習者が主体となる教育の転換が求められます。

令和7年度に変更予定の教育課程について

1 児童の登校時刻変更について

※現在【7:50～8:00】から【8:05～8:15】に15分遅らせることについて

◎教員の勤務時間と合わせることは、子供の完全確保のために必要であり、合理的で納得できる

◎先生方も勤務時間に合わせた働き方をすべきであり、勤務時間外の業務はすべきでない

△学校評価や学校たよりで状況について数回にわたって知らせてもらったが、学校の大きな変更については、もっと早い段階で周知を図らないと、対応が難しい場合がある

△出勤時刻や勤務体系等の都合で対応が難しいご家庭もあり、丁寧な対応が必要である

2 全校たて割り宿泊学習をやめて、大郷地区オリエンテーリングにすることについて

◎2年間実施してからの変更であり賛同できる。地域に目を向けることも意義が大きい

◎地域と子供たちの関わりが減っており、地域の人材を活かして実施すべきである

3 体育館工事（天井吹き付け材・天井照明・ステージ照明・壁面改修）について

◎築42年目の体育館であり、今回全面的な改修が入ることは良いことである

△8月からの4カ月間もの工事期間が予定されており、児童が休業中の夏季休業を入れ、学習活動に支障が少ない方法を検討すべきである

4 大郷っ子発表会を学年ごとに実施することについて

◎体育館改修期間と重なるために、各学年での開催はやむを得ない

5 諸行事のご来賓への案内を減らすことについて

◎入学・卒業の児童数よりも来賓が多くなっており、来賓の数を減らす方向で考える良い機会である

◎案内を出すハガキの経費も高騰しており、参加者を絞っていくことは必要である

△「学校運営協議会メンバー」だけにしている学校も多いが、学校に行く機会が減ってしまうため、急に10名に減らすのではなく、段階的に減らすべきである